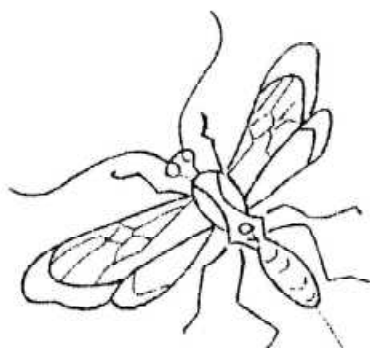


すすむし

Vol. 1.8 No. 3



倉敷昆虫同好会

No. v. 1958

目 次

表紙デザイン—————近藤光宏

伯耆大山の昆虫相 II

INSECT-FAUNA OF MT. DAISEN, WESTERN JAPAN

—————佐藤清明—————/

雌山付近採集小記—————青野孝昭—————5

おとしふみ

セセリチョウ科3種の新産地—————安東瑞穂—————10

編集後記—————10

伯耆大山の昆虫相 II

(INSECT-FAUNA OF MT. DAISEN, WESTERN JAPAN)

岡山清心女子大学 佐藤清明

(S. Sato ; The Notre Dame Seishin College)

(May 1951)

(2) *Maculinea euphemus daisensis* MATS. ダイセンゴマンジミ

(注) 参 考

国立公園大山 鳥取県発行 昭和7年

Y. IKOMA; A phytogeographical Survey of Mt.

Daisen Liberal Arts Journal No. 1, P32 / 1950

大山 (国立公園シリーズ6) 国立公園協会 昭和27年

大山 毎日新聞社編 昭和33年

【伯耆大山昆虫目録】

◎ 印 特 産 種
 ○ 印 著 名 種
 末尾番号 日本昆虫図鑑に因るものの頁数

膜 翅 目 HYMENOPTERA

(1) 蜜蜂科 Apidae

1. <i>Andrena consimilis</i> ALK.	シロスジクビレハナバチ	
2. <i>Apis indica</i> L.	ミツバチ	1494
3. <i>Bombus ignitus</i> SM.	クロマルハナバチ	1493
4. <i>B. tersalis</i> SM.	キイロマルハナバチ	松村 5
5. <i>B. yoshidai</i>	ヨシダマルハナバチ	松村 5
6. <i>Ceratina flavipes</i> SM.	キオビヒメハナバチ	1492
7. <i>Megachile sculpturalis</i> SM.	オオハキリバチ	1488

(2) 胡蜂科 Vespidae

8. <i>Eumenes pomiformis</i> FAB.	トククリバチ	1454
9. <i>Odynerus quadrfasciatus</i> FAB.	ミカドドロバチ	1456

10. <i>Polystes fadwigae</i> DALLA TORRE.	セグロアシナガバチ	1459
11. <i>P. hebraeus</i> FAB.	アシナガバチ	松村 14
12. <i>P. snelleni</i> SAUSSURE.	コアシナガバチ	松村 14
13. <i>Rhygchium flavomarginatum</i> SM.	クロバネドロバチ	(1455)
14. <i>Vespa mandarinia</i> SM.	スズメバチ	1460
<u>(3) 細腰蜂科 Sphegidae</u>		
15. <i>Ammophila infesta</i> SM.	ジガバチ	1473
16. <i>Cerceris carinaris</i> PEREZ.	ヒメツチスガリ	
17. <i>C. harmandi</i> PEREZ.	ツチスガリ	1486
18. <i>C. quinquecincta</i> ASHM.	キスジツチスガリ	1469
19. <i>Crabro basilaria</i> MATS.	ヨツモンキンダチバチ	(1480)
20. <i>Eretastes longipes</i> LICH.	アシナガクロアナバチ	
21. <i>Parabatus cristatus</i> THOM.	スジアナバチ	
22. <i>Puneseus unicolor</i> SM.	アナバチ	
23. <i>Sphex nigellus</i> SM.	コクロアナバチ	1475
<u>(4) 芟甲蜂科 Pompilidae</u>		
24. <i>Parabotroxonus hakodadi</i> D.T.	フタモンベツコウ	1465
25. <i>Salix secundus</i> D.T.	ヒメクロオビベツコウ	1463
<u>(5) 土蜂科 Scolidae</u>		
26. <i>Tiphia popillivora</i> ROH.	マメコガネツチバチ	
27. <i>T. sp.</i>	クロツチバチ一種	
<u>(6) 蟻蜂科 Mutillidae</u>		
28. <i>Methoca japonica</i> YASUM.	ツヤアリバチ	
<u>(7) 青蜂科 Chrysididae</u>		
29. <i>Philoctetes punctatus</i> UGH.	ホシマルセイボウ	
<u>(8) 蟻科 Formicidae</u>		
30. <i>Camponotus herculeanus</i> MAYR.	スネアカオオアリ	1441
31. <i>Crematogaster laboriosa</i> SM.	イビイロシリアゲアリ	1436
32. <i>Formica fusca</i> MOTS.	クロヤマアリ	1444
33. <i>Paratrechina flavipes</i> SM.	アメイロアリ	1442
<u>(9) 小蜂科 Chalcididae</u>		
34. <i>Aislmorphus rhopaloides</i> WK.	タケフシコバチ	
35. <i>Lygocerus koebelei</i> ASHM.	ケープルクロバチ	1403
36. <i>Ophelinoideus japonicus</i> ASHM.	キンイロホソコバチ	1431
37. <i>Pteromalus puparum</i> L.	アオムシコバチ	1411
<u>(10) 姬蜂科 Ichneumonidae</u>		

38.	<i>Acanthostoma insidiator</i> SM.	コンボウアメバチ	1382
○39.	<i>Amblyteles niikunii</i> MATS.	ニイクニヒメバチ	1368
40.	<i>A. trifasciatus</i> GRAY.	キミスジヒメバチ	
41.	<i>Apechthis sapporensis</i> ASHM.	コキアシヒラタヒメバチ	1378
42.	<i>A. japonica</i> D. T.	クロスジヒラタヒメバチ	
43.	<i>Bassus laetatorius</i> FAB.	ヒラタアブヒメバチ	1389
44.	<i>Crematus biguttulus</i> MUNAK.	キバラアメバチ	1387
45.	<i>Cryptus tenuiabdominalis</i> UCH.	ハラボソヒメバチ	1370
46.	<i>Ctenichneumon haerecticus</i> WESM.	マツスズメヤドリバチ	
47.	<i>Ephialtes mandibularis</i> UCH.	フトオビナガヒメバチ	
48.	<i>E. manifestator</i> L.	フシオナガバチ	1374
49.	<i>E. tuberculatus</i> FOUR.	コブシヒメバチ	1374
50.	<i>Epinurus ammlitarsis</i> ASHM.	マメヒラタヒメバチ	1379
51.	<i>E. persimilis</i> ASHM.	クロヒゲヒラタヒメバチ	
52.	<i>Exeristesoides spectabilis</i> MATS.	ヒメマツヒラタヤドリバチ	
53.	<i>Exetastes longipes</i> UCH.	アシナガクロアメバチ	
54.	<i>Ichneumon deliratorium</i> L.	ツマシロアオヒメバチ	
55.	<i>I. mellinotus</i> HOLM.	ツマボシヒメバチ	
56.	<i>Jezarotes tamanukii</i> UCH.	トゲアシヒメバチ	1381
57.	<i>Melanichneumon albivalus</i> UCH.	シロイタヒメバチ	
○58.	<i>Metopius kakonensis</i> MATS.	ハキマルヒメバチ	
59.	<i>Paniscus unicolor</i> SM.	アメバチ	1384
60.	<i>Parabatus cristathis</i> THOM.	スジアメバチ	1385
61.	<i>Perithous aterrima</i> GRAV.	ヒメキアシオアシナガヒメバチ	
62.	<i>pimpla inshgator</i> FAB.	キアシオナガバチ	
63.	<i>P. supra</i> GRAV.	チビキアシオナガバチ	
64.	<i>P. supuria</i> GRAV.	トゲキアシオナガバチ	
65.	<i>Ophion luteus</i> L.	オオアメバチ	
66.	<i>Rhyssa approxinator</i> FAB.	ヒメキアシオナガバチ	
67.	<i>Spilocryptus japonicus</i> UCH.	シロテンヒメバチ	1372
68.	<i>Thelessa japonica</i> ASHM.	オオホシオナガバチ	1373
	(11) 細蜂科 Eurytomidae		
69.	<i>Evania brachygaster</i> FAB.	マルガタヤセバチ	
	(12) 小菌蜂科 Braconidae		
70.	<i>Apanteles liparidis</i> BOUCHE.	ブランコヤドリバチ	1394
71.	<i>Macrocentrus gifuensis</i> ASHM.	ヒゲナガヤドリバチ	1396

72. <i>Rhogas japonicus</i> ASHM.	カモドキコマユ 1400
73. <i>Zela testaceator</i> CURT.	アメイロコマユ 1377
(13) 葉蟥科 Tenthredinidae	
74. <i>Allantus bicinctus</i> MATS.	フタオビハバチ
○75. <i>A. sapporensis</i> MATS.	ツマセグロハバチ
76. <i>Arge nipponensis</i> ROHMER.	ニホンチユウレンシ等 1360
77. <i>A. similis</i> VOL.	ルリチユウレンシ 1361
78. <i>Conspidia</i>	ハチガタバチ一種
79. <i>Nematus dorsalis</i> MATS.	セグロヒゲナガハバチ 1340
80. <i>Siobla ferox</i> SM.	コシアカハバチ
81. <i>Tenthredo miripectus</i> MATS.	ムナクロコシボソバチ
82. <i>T. japonica</i> MOCSARY.	ニホンコシボソハバチ
83. <i>Tenthredopsis flavomandibulata</i> MATS.	キグチハバチ
84. <i>T. hakiensis</i> MATS.	ハキハバチ
85. <i>Tenthredella mesomelas</i> L.	セグロアオハバチ 1352
86. <i>Zazaea triangularis</i> TAKEJ.	フトオビコンボウハバチ

鞘翅目 COLEOPTERA

(14) 斑蝥科 Cicindelidae	
87. <i>Cicindela chinensis</i> UEGGER.	ハンミヨウ 941
88. <i>C. japonica</i> MOT.	ニワハンミヨウ 939
○89. <i>C. sachalinensis</i> MOR.	ミヤマハンミヨウ 939
(15) 歩行虫科 Carabidae	
90. <i>Amara chalcites</i> ZIM.	マルガタゴミムシ 963
91. <i>Carabus dehaani</i> CHAUD.	オオオサムシ 972
92. <i>C. procerulus</i> CHAUD.	クロナガオサムシ 971
93. <i>Chlaenius circumductus</i> MOR.	ヒメキベリアオゴミムシ
94. <i>C. pictus</i> CHAUD.	オオアトホンゴミムシ
95. <i>Colpodes lampros</i> BAT.	アオハラアカゴミムシ
96. <i>Eucalathus aenolus</i> BAT.	ホソヒラタゴミムシ
97. <i>Pristadactylus cyclodera</i> BAT.	クロナガヒラタゴミムシ
98. <i>Pterostichus microcephalus</i> SAUND.	コガシラナゴミムシ 960
99. <i>Lebidia octoguttata</i> MOR.	ヤホンゴミムシ 947
(16) 龍蝨科 Dytiscidae	
100. <i>Rhantus pulverosus</i> STEPH.	ヒメゲンゴロウ 981

雌山付近採集小記

青野孝昭

岡山県西北端に近い雌山付近は昆虫相が不明のまま残されている地域の一つと思われる。この雌山付近も含めて、未知な点の多い県北の中国山脈地帯一帯の採集行が本同好会でも計画されていた。しかし、いろいろの事情で、今年はその実行が無理らしいことがわかった時、せめて、小グループで一泊でもよい、日帰りが不可能の為に見送られていた昆虫相不明地域へ自分達の足を入れてみようということが二三の同好者で話し合われた。そしてオー波の広瀬義躬、広瀬正明両氏による調査班を7月下旬に県北へ送ったあと、小野洋、若林正史両氏および筆者の3名は、本年の8月7、8両日を使って、表記の雌山付近に採集行を試みることになった。この採集行で小野、若林両氏は甲虫に、筆者は蝶に主目標を置いた。ところで、小野、若林両氏は目下のところ、ご多忙中で未整理の採集品を抱えている為、ここには不本意ながら、蝶を主目標とした筆者のみが単独でオ/報を記すことにした。この採集行で得られた蝶以外の昆虫についての知見も、近いうちに小野、若林両氏によって報告される筈とする。

大佐町永富付近

1958年8月7日、伯備線一番列車で北上した私達3名は新見駅で姫新線に乗り換え、午前8時大佐町の小阪部駅に下車した。予定の雌山北麓、大井野へはここからバスが通じているが、時間の連絡がまずく、大井野方面行バスの次の発車時刻は11時25分である。それまで約3時間程の時間を使って、付近を探ることにある。

小阪部は北部山地と吉備高原の中間を東西に伸びる低い盆地の一つ。この一連の盆地はいわゆる中国の中央構造線で、津山盆地、勝山盆地におけるミスジチョウの記録など、蝶相においても県下で一つの特徴を持った地域である。

私達はザツクをキツプ売場へ預け、商店街より東方の永富方面を探ってみた。空は青く澄んで明るく、背後にそびえる大佐山は朝の光を受けて美しく輝いている。しかし、自動車の交う道路は好天続きで白く乾き、砂ぼこりを巻き上げる。この道路沿いに、僅かではあるがツバメシジミ・ルリシジミ・ヤマトシジミ・モンシロチョウ・スジグロシロチョウ・モンキチョウ・ヒメウラナミシヤノメが活動していた。

永富をしばらく行つたところで美しいコムラサキが現れて若林氏のネットに入つたが、そこから平凡な道路をはずして、北側の山へ入つた。山といつても浅い丘のような山だが、谷間には稲田が細く続き、すぐ東に低い尾根が平行して伸びている。従つて、谷間には朝日はとどかず、涼しい陰が露を残して、はや乾き切つた陽当りのよい道路とは大いに環境を異にしている。私達はまず谷を進む。僅かながらナラガソウが生えているので連鎖反応式にウラジロミドリシジミが頻りに浮ぶ。すると、あわい期待は、たちどころにかなえられた。すぐ目の前に現れたゼフィルスがウラジロミドリシジミ♀で

であった。もう古くなった個体だったが、県南に比べて遅く迄生存しているものだなと思う。発生期が長いのか、ずれているのか、いずれかであろう。この谷でメスグロヒヨウモン・コムスジ・ジャノメチヨウ・コジャノメ・ヒメウラナミジャノメ・イチモンジセセリを見る。

もう、これ以上この谷についても、同じような状態の継続があるだけだと思い、谷を横切り、低い尾根を越えて、東側のゆるい斜面に出る。ここはまた明るく、乾燥した草原に雑木を混じえている。ここでもナラガシワからウラジロミドリシジミ / 早を得る。ワレモコウがあつて今度はゴマンジミのいそうな匂がする。ところが、また期待がむくいられて、1頭を見送つたあと、旭の1匹を花上より得る。以後、私達は3人で気をつけたが、ルリシジミばかり出て来て、ゴマンジミはもう姿を見せなかつた。結局、引き上げる途中、アサマイチモンジ・ルリタテハ・ベニシジミ・ダイミヨウセセリ・クロヒカゲを得て、永富付近からは計20種の蝶を記録することとなつた。

雌山に登る

小坂部駅前のバス停留所を11時25分に出発した私達はいよいよ目的地、大井野へ向つて進む。道は廻りくねつて高梁川の支流、小坂部川がいにこぼへ奥へと入つて行く。バスの窓からミヤマカラスアゲハらしいものがゆつたり飛翔しているのを何回となく見ているうちに、変化に富んだ美しい峡谷が付き、視界が広がると、左手になだらかな雌山が現われる。車窓からみた雌山(1064m)は、その名の示すやうにやさしく美しい山だ。それよりも少し高い雄山(1152.8m)と抱合するやうに立っていて、雌山が荒々しい樹木におおわれているのに対して、雌山が柔らかい毛皮のような草に包まれているのが対象的で興をそそる。この二つの山の頂は阿智郡大庄町に属していて、雌山の山腹の一部は新見市に属している。12時に、私達は大井野小学校前に到着した。

昼食のあと、大井野小学校長から雌山の登山コースを聞き、いよいよ登山にかかる。山腹が既に600mたらずの標高を持っているので1000m級の山といつても、実際には500m程登ればよい。そこで軽い気持ちで出発する。途中、土地の子供が昆虫採集を珍しがつて山頂までの道案内をかつて出る。3名の子供を加えて一行は6名となる。標高700m位まではゆるやかな傾斜が続き、一面ワラビ原が広がる。ジャノメチヨウが次々と現われてはワラビの陰に姿を没す。ヒメウラナミジャノメやキマダラヒカゲも僅かにいる。標高700mを過ぎる頃から傾斜は角度を増し、イネ科をはじめ、草本類の種類が豊富になつて面白くなりそうであつた。樹木は数える程しかないので、夏の強い日差しをまともに受け続けているが、適度な風が乾いた空気を送ってくるので比較的しのぎよい。見晴らしもよいのでピクニック気分、ネットを子供達に使わしたりしながら、ゆつくり私達は登つて行つた。ふと気がつくと、蛾のような飛び方をするセセリがいる。低く、草の上を這うように飛ぶので見失い易いが、ギンイチモンジセセリに違いない。若林氏が追つて行つたが遂に見失つた。しかし、それはどうでもよいことであつた。最初の1頭が私達の注意をうながした。そして、この草地にはギンイチモンジセセリばかりでなく、ホソチヤバネセセリ・コマダラセセリ・ミヤマチヤバネセセリがつましやかに生活していることが次々とわかつていつた。個体数はそう多くはないが、特に、コマダラセセリは1頭しか得られなかつたが、彼等がここに住みついていることは確かであつた。子供達は、次々と採られる蝶の名前を見えようと何回となく名前を聞いた。私達は喜んで答えた。ヒヨウ

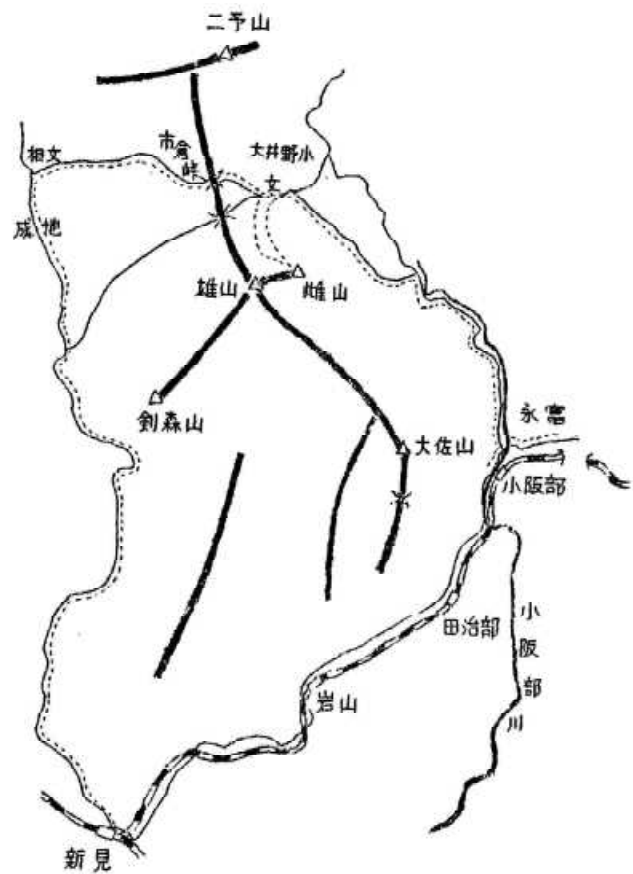
モンチョウ類はこの草地に4種いたが、いずれも鱗粉が少し薄れていた。オオウラギンヒョウモン・ウラギンヒョウモン・ウラギンシジヒョウモン・クモガタヒョウモン・これらのうちでは、やはり、ウラギンヒョウモンが個体数の絶対優位を示していた。オアシスのように樹木がかたまっているところがあつて、その陰で休憩することにしたが、そこにはヒメキマダラヒカゲが活動していた。非常に新鮮な個体であり、6月23日に麻湊する大佐山付近で得たヒメキマダラヒカゲが大変いたんだ雌であつたことなど、この種は当地では年々回発生するのではないかと疑問が生じてなかなか消えない。

雌山の頂上付近からは、それまでついていた小道がなくなつていた。全くの草地を押分けて、強引に頂上に立つたが、付近には背の

低い杉がまばらに生え、ススキが生い茂つて、子供達の姿は殆んど没してしまふ。南には大佐山が突つた姿を見せ、北側はるか向うに大山がそびえて頂を雲の中につこんでいた。

雌山頂上にはキマダラモドキが巣つていたが、既に発生以来相当日数を経ているものようであつた。多くは翅の一部を欠損し、すべての個体が鱗粉をかなり落していた。いずれにしても県下では普通の種類ではない。それがノの稜程一カ所に巣つていたのだから意外だつた。頂上ではその外に、スミナガン・ミヤマカラスアゲハ・キアゲハ・ダイミョウセセリがそれぞれ縄張を競い、その間隙を縫つてキチヨウ・ジャンメチヨウ・ヒメウラナミシヤノメが動いていた。

記念撮影をしたのち、私達は下山を始めた。今度は環境をかえて谷筋を下ることにする。そこは雌山の一部であると子供達が教えてくれる。谷筋に見える炭焼小屋を目撃し草地をはねたりとんだり、子供達は歌を歌いながら下りて行つた。炭焼小屋のわきには炭材の丸太が並べて立ててあつた。若林氏の作業が始まり、一本一本点検されて行く。私はおこぼれのウスイロトラカミキリやニシマトラカミキリなど貰つて満足する。それより目標の蝶の方が気になる。作業が終るまでに付近から美しいアサギマダラがかなりいることを発見して追いかけたり、サカハチチヨウを見つけて、やはり、ところ変れば品変わるものだなと思つたりする。アサマイチモンジ・コムシジ・コチヤパネセセリ・クロヒ



雌山付近概念図.....は私達のとつたコース

カゲも草地ではノ頭も見受けなかつたものだ。それがこの谷には何回となく現われた。小野氏は主として葉上の甲虫を叩き落しては、吸いとつているようだ。谷筋の下りは長かつた。スゲの群落があつてオオヒカゲへの期待がわいたが、それはむくいられなかつた。太陽は、はや西に没し、長い夏の日も終りに近づいた頃、私達は山道からやや広い道に出た。そして、それまでに、この谷筋でアオバセセリ・カラスアゲハ・クロアゲハ・ヒメジャノフを更に追加発見し、広い道に出てから獲したホソバセセリ・ベニシジミを含めて、雌山付近から計30種の蝶の記録を収録に、今日の宿舎、大井野小学校校舎へと引上げていった。

市 倉 峠 越 え

立派な被服教室を手えられた私達は、校長の心づくしに接し、楽しい一夜を送ることができた。私達は感謝の気持ちをこめ、雌山唯蝶の腹巻標本を一箱分作つて記念に残し、8月8日午前7時半頃、校門をあとにした。

校長の推薦もあつて、大井野から西方の市倉峠を越えて新見市の成地方面に至るコースを歩くことにする。10時近い真夏の日差しは既に強烈で男性的であつた。南に雌山がそびえているが雌山程楽しくない。ミヤマカラスアゲハが飛ぶ。大井野から市倉峠に至るコースでの採集で印象的だつたのは、峠もかなり近くなつた頃、道の北側斜面に発見したカシワ林での収穫であつた。最初、若林氏がゼフィールの飛翔するのに気づき、それからカシワの存在を知つた。そこで、若林氏と私は明るい斜面を登り、しばらく採集する。まばらに生えたカシワを叩くと、決つたようにハヤシドリシジミが飛び立つ。殆んど雌で、比較的新鮮なものが多い。日差しが強過ぎるのかハヤシドリシジミは飛び立つても、間もなく元のカシワか、あるいは近くの樹の日陰の部分を選んで翅をやすめる。樹もあまり大きくない。だから、ねばりさえすれば、採集は容易だ。若林氏は雌の外に、ぼろぼろにいたんだ雄も採つていたが、私は雌ばかりを得た。少数ではあるが、ミズイロオナガシジミもいた。カシワ林はコナラも混じっていたが非常にまばらな林で、その間には草地が発達している。この草地ではギンイチモンジセセリを見、クロシジミ1♀を得て、下へおりて行つた。

小野氏は道の両側で相変わらずビーラインズを覗けているが、大した収穫はないという。道路にはアサマイチモンジが多く、ルリタテホも時々、現われる。峠もいよいよ近づいてきた頃、私は飛び古

昆虫・植物採集用具
理化学機器
岡山市西中山下(柳校交点東)

永瀬教育堂

電話 ㊟ 4725

新刊書籍・雑誌・文具

愛文社書店

倉敷市西河知町 TEL 124

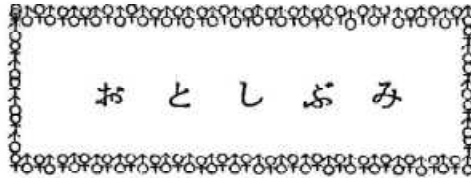
したマシジミノを網こした。この蝶は30年程以前から県北一円に生息していることが報ぜられてはいるが、自分の手で県下から得たのは初めてであった。

峠でしばらく休憩、ちらつくキマダラヒカゲを見ながら汗をふき、水筒の水を飲む。付近は、かつてはブナの大木が繁っていたらしいが、現在は二、三本の巨木を残して、山は伐採されたままの荒地となっている。校長の話によれば、一、二年のうちにこの峠をバスが交うようになるそうだ。この峠を境に西側の下りは新見市になる。こんな山奥でも市内なのだから、今まで市というものに対して持っていた概念を改めてかからねばならない。峠を下りだして間もなくスジグロシロヤバネセセリノを採る。この蝶もあたりがいかにも人里はなれた山地だという印象を深くさせる。スジグロシロチョウも多い。一度など、ヒメシロチョウのような飛び方をするものをみて、それつとばかり追いかけ廻したあげく、ふわふわと逃げられて、こちらは軽傷を負うという破目にもあつた。やがて木材伐採用の飯場が現われる。そこでミヤマチヤバネセセリ・コムラサキ・クロアゲハ・オナガアゲハ・カラスアゲハ・ヒメウラナミジヤノメを見たり採つたりする。材木置場では若林氏がカミキリを漁る。

以後、溪流に沿って単調な下りとなるが、飯場からしばらくいったところで、ちよつと奥まつた谷を見つけ、陽のとどかない、溪流のそばで昼食をとる。清い流れはしみとおる程冷たく、溶いて飲んだカルピスはまさに清涼そのものであつた。夏だというのに、やや寒気を感じる頃、そこを出る。溪流流沿いに再び下つて行く。この付近にはカラスアゲハは多いがミヤマカラスアゲハは姿を見せない。道が進むにつれて、付近は俗化していく。キチヨウ・コムスジ・アサマイチモンジの連続でいささか単調だが、これらに混つて時々、他の種が現われ変化を与える。ウラギンシジミ・ダイミョウセセリ・ヒメキマダラセセリ・サカヘチヨウ・ミドリヒヨウモン・ウラギンヒヨウモン・テングチヨウ・ジヤノメチヨウ・クロヒカゲといったところ、小野氏はオオミドリシジミノ♀を得、若林氏はオオウラギンヒヨウモンを記録したそうだ。

道はいつの間にか民家の間を縫って行くようになり、私達は成地へ達する手前の相女というところで新見行バスに乗った。あつけない2日間の幕切であつた。しかし、中央盆地から北部山地にかけての浦北から8月の蝶、55種を記録し得て、ある程度の充足感が私を支配していた。この採集行の結果、県南では全く見られない数々の種が県北に生息していることが実感としてせまり、ますます、私は県北への憧憬のとりこになるのであつた。

<p>理化学器機・光学器機 度量衡・計量器・採集用具</p> <p>平田光学器機店</p> <p>岡山市中之町27 電話 ② 5475</p>	<p>テ理 生物・地学標本模型 化 昆 虫 採 集 用 具 学 器 器 機</p> <p>テレビ・ラジオ・真空管 島津製作所岡山県代理店</p> <p>サカエ商会</p> <p>倉敷市栄町(赤穂院西)電話 9 / 3 番</p>
---	--



セセリチョウ科3種の新産地

1. *Aeromachus inachus* MENÉTRIÉS ホシチャバネセセリ
 真庭郡新庄村 Ⅷ. 5. 1957 IEX'
 県下では珍種に属するものであるが、新庄村梨瀬より田浪に至るコースで数回目撃し、うち1頭を採集した。
 2. *Leptalina unicolor* BREMER et GREY ギンイチモンジセセリ
 真庭郡新庄村 Ⅷ. 4. 1957 1♂1♀
 田浪附近 (標高700m) の山麓の草原より採集した。
 3. *Bibasis aquilina chrysaeglia* BUTLER ギバネセセリ
 真庭郡新庄村、毛無山 (1218m) Ⅷ. 4. 1957 1♂1♀
 毛無山中腹 (標高800m) の樹木中のサンゴジュの花に集来したものを採集した。
 なお、本種は ※ 従来岡山県からの記録はなく、この報告をもつて最初のものと思われる。
- ※ 白水隆 : 日本産蝶類分布表 1958.

(安東瑞夫)



編 集 後 記

採集のシーズンも去り、今年の採集品の整理に、そして研究の成果のまとめに、多忙な日々をお送りのことと思います。

すずむしも10巻目を数え、このところ2号、3号と矢継早に皆さまのお手許にお届けいたしました。出来栄えのご感想は如何でしょうか、編集者も勤務の関係で多忙の二字に追いつまれている状態ですが、そういつた中にも寸暇を借んで虫を眺める楽しさは、また格別のようです。

“冬来りなば春遠からじ” 皆さまの益々のご健斗を祈つて止みません。 (とん坊)

すずむし	才8巻才3号	昭和33年11月30日	印刷
		昭和33年11月30日	発行
編 集 兼	岡山大学大原農業生物研究所		
発 行 者	害虫部才2研究室内 倉敷昆虫同好会		
印 刷 所	岡山市内山下30/5 鳥城軽印刷		